

全国高校ビブリオバトル

REPORT

2024年1月28日(日)、第10回を迎える全国高等学校ビブリオバトル決勝大会が、東京国際大学・池袋キャンパスで開催された。47都道府県の地方大会と読売中高生新聞大会(オンライン開催)を勝ち抜いた49名が

各自の「推し本」を手に、高校生日本一を目指した。

予選終了後、ゲストの朝井リョウ氏と高瀬隼子氏の両作家によるトークセッションを挟み、いよいよ決勝進出者8名が決戦の場へ。

白熱した戦いを制し、グランドチャンプ本に輝いたのは、埼玉県立越ヶ谷高等学校福本皓瑩さん『同姓同名』(下村敦史 著/幻冬舎)。

優勝した越ヶ谷高等学校福本皓瑩さん



準チャンプ本は京都市立日吉ヶ丘高等学校木原琉翔さん

『カキフライが無いなら来なかった』(せきしろ×又吉直樹 著/幻冬舎)、

ゲスト特別賞は大阪・関西創価高等学校神前拓望さん

『吉祥寺の朝日奈くん』(中田永一 著/祥伝社)、

東京国際大学賞は鹿児島県立加治木高等学校宮路結愛さん『月と日の后』(冲方丁 著/PHP研究所)が、それぞれ受賞した。

東京都代表の樋口さんと辻井さんも、都大会からさらにブラッシュアップされたプレゼンを披露し大健闘。樋口さんが激戦の予選を突破し、価値ある優秀賞を獲得した。

写真提供: 読売新聞社

超カンタン

ビブリオバトル 書評合戦のルール

1 おすすめ本を持って集まる。



2 面白さを5分間でアピール後、みんなの質問タイム2~3分間。



3 読みたくなった本に投票、チャンプ本を決定する。



公益財団法人 文字・活字文化推進機構



ホームページ <https://www.mojikatsuji.or.jp>
E-mail: office@mojikatsuji.or.jp

高校生による 書評合戦

ビブリオバトル



高校生書評合戦 (ビブリオバトル) 東京都大会

2023年10月22日(日) 9:00~16:50

「人を通して本を知る。本を通して人を知る」がキャッチコピーの高校生書評合戦 (ビブリオバトル)。

この3年、「新型コロナウイルスの感染症対策」という制約がある中で開催を余儀なくされました。今回は4年ぶりの通常開催です。聴いている人たちに自分の思いが伝わるように、自由かつ個性的なパフォーマンスが繰り広げられました。

9時35分からの予選には134名が出場。8会場に分かれて3試合ずつ行い、計24試合のチャンプ本が準決勝に進出しました。

決勝の舞台にコマを進める6名には誰が、そして、どの本が選ばれるのでしょうか。

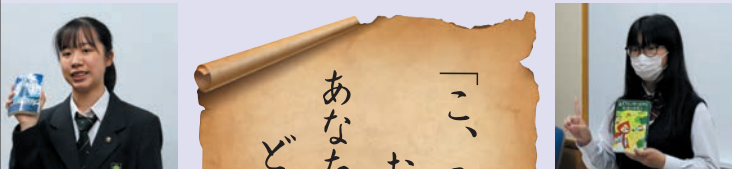
今まで読んだことのなかった本、知らなかった本との出会い。「人を通して本を知る」チャンスです！



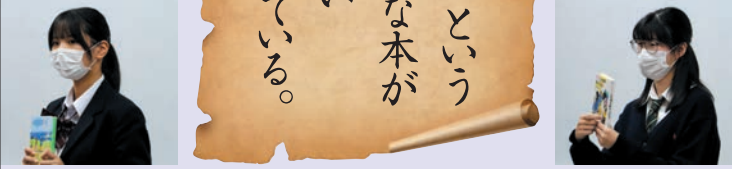
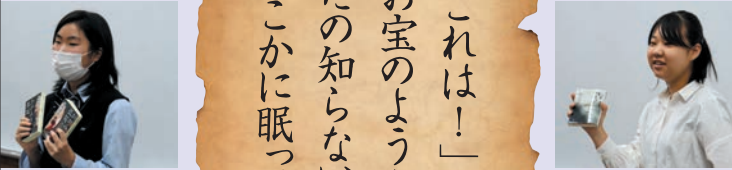
会場となった国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟



発表を聞いて読んでみたくなった本にブックカバーを挙げて投票 (都立八王子桑志高等学校 産業科デザイン分野の生徒による作品2種)



「こ、これは！」というお宝のような本がどこかに眠っている。



決勝

15:10~16:10

6/134 (決勝に進出できる確率は4.5%)。選ばれし6名がセミナーホールで頂点を目指して熱戦を繰り広げました。

チャンプ本



都立桜修館中等教育学校4年
樋口 愛菜さん
『N』
道尾 秀介 著
(集英社)

6つの短編が交互に、上下逆に印刷されている普通じゃない本です。読む順番によって結末が左右され、720通りあります。読む人それぞれに違う顔を見せる『N』。あなた、あなたによる、あなたのための物語。

準チャンプ本



都立八王子東高等学校1年
辻井 龍之介さん
『百年法』
山田 宗樹 著
(KADOKAWA)

不老不死が実現した未来の日本。理想的に思えますが、外見で年齢が分からなくて、街でナンパした女性が自分のおばあちゃん世代だった、なんてことが起こります。私たちの死生観を覆すエンターテインメント本です。

優秀賞



都立八丈高等学校2年
菊池 紡さん
『神風二ト特攻隊』
荒川 祐二 著
(地湧社)

生まれた時から反抗期の私に、「父ちゃんと母ちゃんにありがとうって言わなきゃ」と思わせてくれた本です。私にしてはすごいこと。皆さんの大切な人にも素直な気持ちを伝えるきっかけになってくれるかもしれません。



都立松が谷高等学校1年
百々 凜花さん
『朗読者』
ベルンハルト・シュリンク 著
松永 美穂 訳
(新潮社)

最も心に残る言葉は何度読んでも変わりませんでした。ハンナが裁判官に発した「あなただったらどうしましたか？」という一言です。私ははまだハンナの問いに答えられずにいます。あなただったらどう行動しますか？



都立武蔵野北高等学校1年
中口 和香さん
『悪い姉』
渡辺 優 著
(集英社)

麻友はなかなか姉を殺そうとしますが、殺すチャンスはたくさんありました。姉に殺意を感じると、麻友の顔には自然と不気味な笑みが浮かびます。もし皆さんの周りにゾッとする笑顔の人がいたら気をつけて下さい。

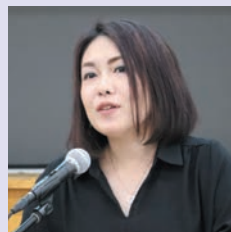


都立白鷗高等学校2年
藤原 夕奈さん
『透明な夜の香り』
千早 茜 著
(集英社)

私がこの本を初めて見た時、帯には「この本からは香りがする」とありました。紙やインクの匂いではなく、物語自体から香りがすると。素敵なたらぬ。でも、読後にこの本を思い出した時、本当に香りを感じたんです。

講演会

小説家 町田そのこ氏



小説家って本をたくさん読んできた人だと思われているかもしれませんが、でも私、たぶん皆さんより読書量は少なかった。高校生の頃は名作とかベストセラーとは無縁でした。

何を読んでいたかという、好きな作家の好きな作品を何十回も何百回も読んでいたんです。氷室冴子さんという小説家の作品は全部。『なんて素敵にジャパネスク』シリーズは好きすぎて、好きなシーンを暗唱できるくらいに読んだり、ノートに書きつけたりしていました。氷室さんの書く作品の中にずっといたい、そこで息がしていたっていう状態だったんです。

小学校高学年の頃、いじめにあっていたんですね。教室の中に居場所がない、心の安らぐ場所がない。だから氷室さんの書く物語の世界に逃げ込んでいました。氷室さんの本は、お守りみたいに肌身離さず、ランドセルに1冊2冊入れておいて、つらくなったら読む。そういう読書をしていました。

その氷室さんに、『銀の海 金の大地』という未完の作品があります。全8章で構想されたものが1章が出てすぐ休筆されちゃったんですね。この続きはもう出ない。だから自分で書き始めました。学生時代の私は、氷室さんが書いた物語の続きをひたすら書き続けました。この経験が作家としてのバックボーンを作ったと思っています。

全国大会の出場権獲得おめでとうございます。「この人が書く本はおもしろい！」と思う作家 (あなたにとっての氷室冴子さん) は誰ですか? —インタビュー

樋口 愛菜さん (チャンプ本)

私は辻村深月さんです。コロナ禍だった中1の時、『かがみの孤城』を読んで、「わあすごい！」と思って、それから本屋大賞の受賞作とかがをどんどん読むようになりました。

辻井 龍之介さん (準チャンプ本)

僕は星新一さんです。読書がそんなに好きじゃなかった小5くらいの時に、なんとなく表紙にそそられて手に取りました。読んでみたら、これがおもしろすぎて、「小説ってこんなにおもしろいものなのか！」みたいになって、そこから小説を読むようになったんです。『ポッコちゃん』や『おーい でてこーい』、あのへんが僕の読書の出発点になったのかなって思います。

